

## リハビリテーション職による専門的助言訪問事業について

### 【概要】

住宅改修、福祉用具貸与の申請時の確認等において、リハ専門職が関与することで、専門職としての視点から、利用者の状態像等に対応した適切な住宅改修の実施や福祉用具の選定を促し、利用者の生活の質の向上につなげる助言等を行います。

### 1. 実施方法

#### (1) 住宅改修

事前申請時に、書類だけでは改修の効果が具体的に確認できないケースや、専門職から助言を行うことでより本人の自立につながると考えられるケース等について訪問調査を行います。

現地では、本人の動作確認や改修予定箇所の確認を行い、改修の適否について判断します。また、本人や家族、担当ケアマネジャー、施工業者に対し、リハ専門職としての視点から本人の自立支援につながる助言等を行います。

#### 《具体的な事例》

- ・過去の支給実績と比べ、改修工事金額が極端に高額な申請の場合
- ・手すり等の設置位置について、改修の効果が具体的に確認できない申請の場合

#### (2) 福祉用具貸与

給付データや福祉用具貸与理由書の内容に疑義があるケースや、専門職から助言を行うことでより本人の自立につながると考えられるケース等について訪問調査を行います。

現地では、可能であれば実際に本人が福祉用具を利用しているところを見て動作確認を行い、貸与の適否について判断します。また、本人や家族、担当ケアマネジャー、福祉用具貸与事業所に対し、リハ専門職としての視点から本人の自立支援につながる助言等を行います。

## 《具体的な事例》

- ・軽度者に対する申請の内容に疑義がある時
- ・給付実績で利用者が複数の福祉用具貸与を受けているが、その効果に疑義がある場合

※件数は、(1)(2)合わせて年1～2件の予定です。

訪問調査時には、担当ケアマネジャー、施工業者、利用者および御家族等の立会をお願いします。

## 2. 検証方法

(1)(2)とも点検・検証が必要であると判断したケースについて、市から担当ケアマネジャー等へ連絡し、場合によって必要書類の提出を求めます。また、必要に応じて、聞き取りやヒアリング等を行います。

リハ専門職が関与することで、専門職としての視点から、利用者の状態像等に対応した適切な住宅改修の実施や福祉用具の選定を促し、利用者の生活の質の向上につながる助言等を行うことを目的としていますが、利用者の自立支援・重度化防止の観点からは是正する場合があります。